

‘夏さやか’の耐寒性

1. 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

‘夏さやか’は胴枯病の被害が多く、特に主幹部の被害が深刻になることが多い。その要因として耐寒性が低いため凍害を受けやすく、これにより発生した傷から胴枯病菌が浸入している可能性が考えられるが、‘夏さやか’の耐寒性についてはこれまで調査されていない。そこで、時期別に他品種との比較を行い、耐寒性程度の評価を試みた。

(2) 情報・成果の要約

- 1) ‘夏さやか’は他品種と比較して耐寒性が低く、特に1月から3月の耐寒性が低い。
- 2) ‘夏さやか’を植栽する際には凍害を受けにくい園地を選ぶとともに、凍害対策を行う必要がある。

2. 試験成果の概要

(1) 2013年11月から2014年3月の各月上～中旬において‘夏さやか’‘なつしずく’‘幸水’‘おさゴールド’‘新興’の1年生枝を採取し、松本ら(2010)の方法(一部改編)に従いプログラムフリーザー(日立コスモピアC)を用いて -10°C 、 -15°C 、 -20°C の低温処理を行い、花芽の障害程度を4段階で調査した(図1)。耐寒性が低下すると考えられる3月上旬のみ、 -5°C 、 -10°C 、 -15°C の低温処理とした。耐寒性は障害を受ける芽が50%未満となる温度を限界温度として評価した。

(2) 11月および12月における‘夏さやか’‘おさゴールド’‘新興’の限界温度は‘なつしずく’‘幸水’より高く、耐寒性が低い状態であった。3品種のなかでも、‘夏さやか’は‘おさゴールド’‘新興’より障害程度が進んだ芽の割合が多かった(図2)。

(3) 1月に入ると‘夏さやか’以外の4品種は -15°C まで限界温度が低下したが、‘夏さやか’は -10°C であり、その後2月から3月にかけても他の4品種より限界温度は高い状態で推移した(図3)。

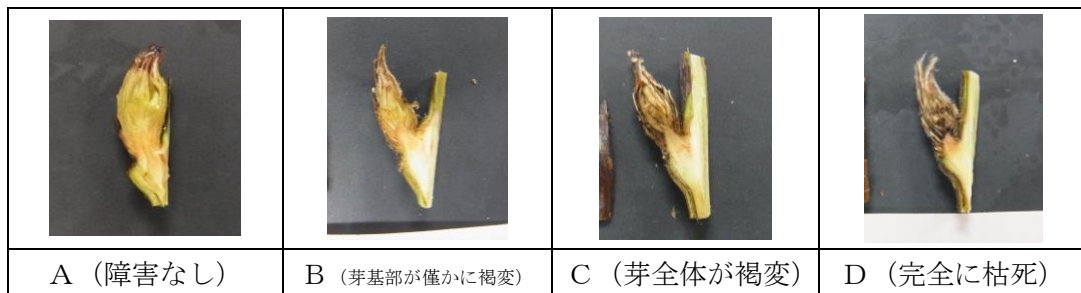


図1 低温による花芽の障害程度

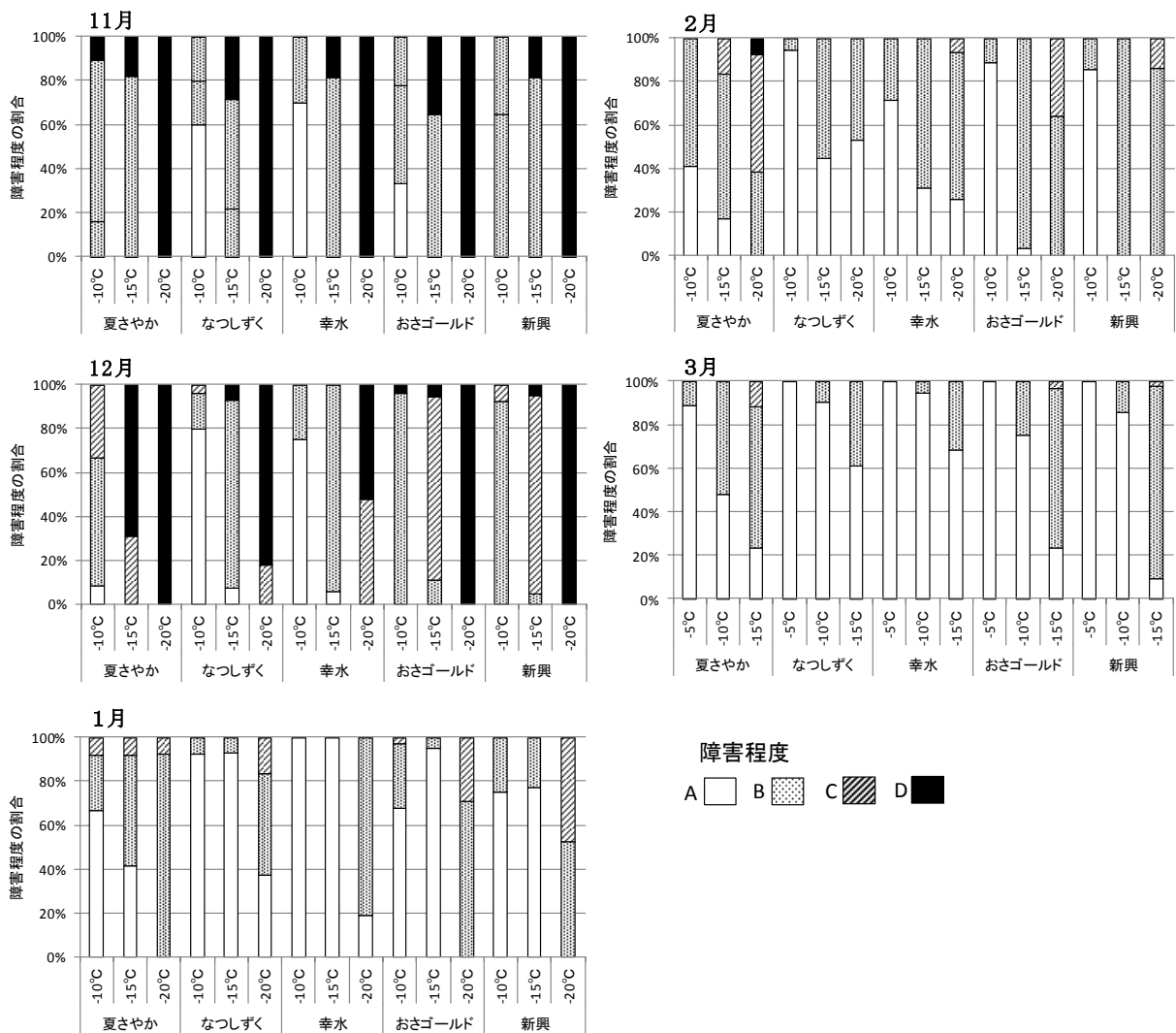


図2 秋季から春季における花芽の低温耐性の変化

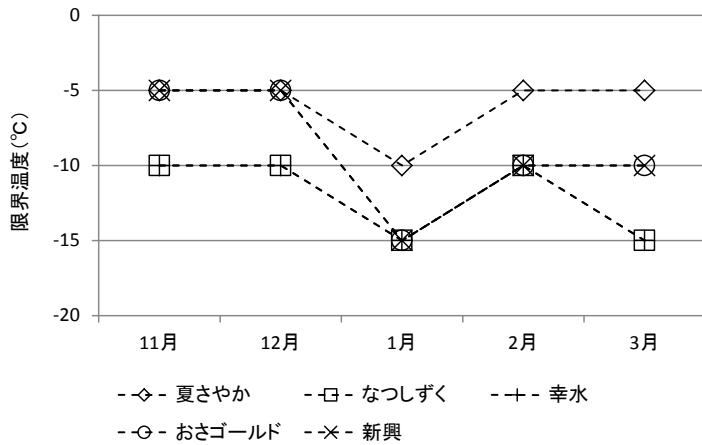


図3 品種別の耐寒性評価

注) 11月～2月調査で-10°C処理でも50%以上の芽に障害が見られた品種は、限界温度を-5°Cと推定して評価した。

3. 利用上の留意点

- (1) 本試験は1年生枝の花芽の限界温度について調査したものである。
- (2) 限界温度は年次、ほ場条件等により変動する可能性がある。

4. 試験担当者

{
 果樹研究室 研究員 伊藤直子*¹
 果樹研究室 室長 池田隆政

*1) 現 東伯農業改良普及所改良普及員